

クラスター爆弾に苦しむラオス！

●経営革新塾しよう会講演会／その4

20 日夜の認定 NPO 法人シーエスアールスクエア理事長の穴戸仙助様のご講演「リタイヤ後は、利他 Years！ ～東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ～」の記録を続けましょう。

◇ ◇

◆ラオスと日本の差 【写真はご講演の内容に沿って香田がネットから引用したものがああります】



ラオスは日本から北海道を除いたくらいの面積です。人口は今、710万人くらいでしょうか。国内総生産 212 位、10 年前まで 142 位だったんですよ。世界で何カ国あるんですか、ほぼラオスに近いですよ。昨日も南大沢小学校で「日本は世界で 3 番目にお金持ちなんだよ」と話したら、ウェーと驚いていましたが、GDP ではアメリカ、中国に続いて日本は第3位ですね。

◆クラスター爆弾に今も苦しむラオス

この写真に写っているラップ君に会うのは 4 年ぶりに 3 回目なのですが、このラップ君が 4 年前に 4 か月間だけ学校に来られないことがあったのです。このラップ君が 4 か月間だけ学校に来られなかった理由はなんでしようかという問題です。4 択です。



- ① 貧しいから働かされていた。さっきも話しましたが、小学校 3～4 年生になると、「もうお前は学校に行かなくていいから家の仕事手伝え」と言われて学校に行かせてもらえなくなる
- ② 病気やケガをしていた。ラオス南部は薬が無いです。ワクチンもありません。コロナが流行ったからってワクチンが無いんです。国にワクチンを買うお金がないんです。首都のヴィエンチャンの人たちは受けられたかもしれませんが、それ以外の人たちはほとんど受けられない。だからラップ君は病気で 4 か月間寝ていたんじゃないか。
- ③ 通学路が流されて学校に行けなかった。ラオスの 6・7・8 月は雨期です。

3 時半になるともの凄い勢いで雨が降ってピタッと止まります。

スコールですね。その量が半端ないために道路や橋が流されて学校に来れなかったんじゃないか。

- ④ イジメに遭っていたのではないかと。ラオスは 24 の民族が住んでいます。数え方によっては 48 とも言われるんですけども、低地ラオ族、中地ラオ族、高地ラオ族というような数え方もしますが、ぜんぜん知らない民族の子どもがボツンと一人ここに入った。この子がイジメに遭う可能性は、何て言うとうん、うん、うんと、この学校では無いよと言うと、「はい、ありません」なんて言われますが、イジメに遭っていたのではないかと。

さて、このラップ君が 4 か月間だけ学校に来られなかった理由を 4 つの中から選んでほしいのです。

- ① 貧しいから働かされていた。 14 人
- ② 病気やケガをしていた。 1 人
- ③ 通学路が流されて学校に行けなかった。 10 人
- ④ イジメに遭っていたのではないかと。 なし

はい、ありがとうございました。この写真はアジア教育友好協会の谷川洋前理事長とラップ君の写真です。ラップ君は、毎日、学校が終わると隣のお兄ちゃんと遊んでいたんですね。ある日、隣のお兄ちゃんが遊びに誘ってくれ、(兄)「今日は森に行くぞ！」、(ラップ君)「お母さんが森に行っちゃいけないって言っているよ」、(兄)「明日から遊ばないぞお」、(ラ)「だってえ」、(兄)「明日から遊ばないぞお」、(ラ)「分かった行く」というようなやり取りがあって、ラップ君はお兄ちゃんと一緒に森に入って行きます。暫くすると「ラップ、そこに変なものが落ちていぞ、丸いやつ。危ないものかもしれないから、お前は木の後ろに隠れている」と言われて、ラップ君は大きな木の後ろに隠れます。お兄ちゃんはその丸い物を棒でたたきます。ドーン！と、クラスター爆弾の不発弾をお兄ちゃんは爆発させてしまったのです。それも座り込んで、棒でたたいたものですから、もの凄い爆風で大きな木の後ろに隠れていたラップ君も飛ばされました。立ち上がってお兄ちゃんの方を見たら、お兄ちゃんの体はバラバラなんです。ラップ君は、もう怖くて怖くて、悲しくて悲しくて、やっとのことで家に帰って、もう泣いて泣いて泣いて泣いて、それから 4 か月間ラップ君は外に出られなくなってしまったのです。PTSD ですね。これが、その 4 か月後の写真です。

「ラップ、新しい学校で来たぞ、大丈夫か」と聞いても返事はありませんでした。「お兄ちゃんが死んじゃったのは可哀そうだけれども、お前が生き残ったのにはきっと訳があるんだよ。一所懸命学校に来て勉強して、お兄ちゃんのようなことがない国にしよう」と声を掛けました。初めて彼が出てきた時の写真です。ラップ君にはそんな事件がありました。

ベトナムの時に、このラオスとベトナムの国境沿いにベトナム側では国道 14 号線、ホーチミンルートと呼ばれるルートです。ここを通過して、中国やロシアから武器弾薬を運びました。それを叩くために枯葉剤、そしてクラスター爆弾が山ほどまかれたのです。この写真がクラスター爆弾です。空中で分かれて、中から子爆弾がまかれるのです。この子爆弾が地面に落ちて、地面に絨毯を敷き詰めたように爆発させるのです。これをアメリカがウクライナ戦争で使おうとしているのです。余っていたからという調子です。本当に余っていたのかどうかは分かりません。

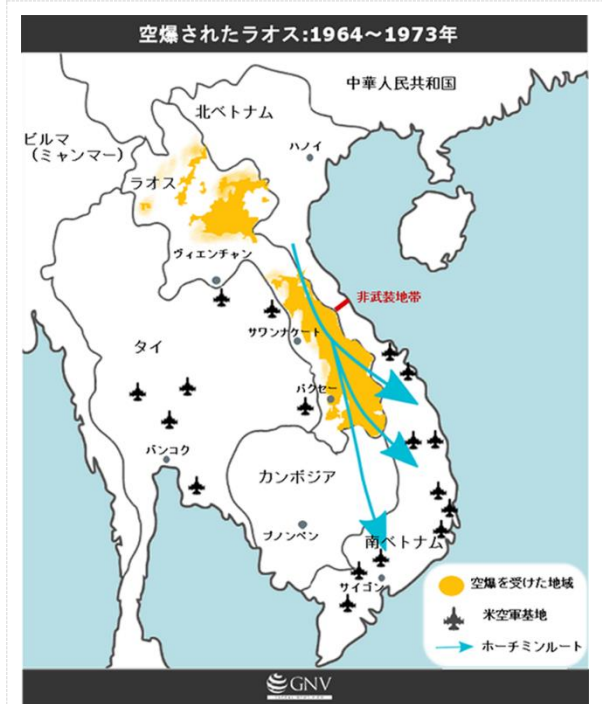
このクラスター爆弾、爆弾 1 個に 600 個の子爆弾が詰まっていますので、20 個、30 個は不発弾として残るのです。それがラップ君のお兄ちゃんのような事件につながるのです。犠牲になるのは、子どもであり、畑を耕すお母さんたちなのです。コンコン、ドカーン！ 現地にある倉庫の柱は全部クラスター爆弾の薬きょうです。クラスター爆弾が分かれた部分です。先の尖ったタイプと丸いタイプと 2 種類あるのです。森に行けば、こうした薬きょうがいくらかもあるのです。丈夫です。ネズミがかじれません。腐りません。だから拾ってきて柱にするんです。でも、これが在るということは、クラスター爆弾の不発弾も山ほどあるということなのです。

私が 12 年前に現地を訪れた時に、車で移動していて困ったのがトイレです。通訳の人に車を止めてもらい、森の中で用を足そうとしたときに大声で「森に入っちゃダメ」と止められました。測量棒のようなものの上にあったのがクラスター爆弾の不発弾だったのです。

これはクラスター爆弾の子爆弾ですが、地面の上で爆発させれば直径 1m、深さ 20cm の穴が開きます。地面の固さにもよりますが、もの凄いの破壊力です。プラスチック爆弾ですから、半端ないです。私の現場は、こうしたクラスター爆弾が投下された場所なのです。今年 10 月に行こうとしているのは、北部のシェンクワン県に行こうとしています。

このクラスター爆弾は、戦争から 50 年も経っていますので探すしかないのです。クラスター爆弾を撤去するには 1 チーム 13 人で行います。金属探知機で探すチーム、掘るチーム、爆発させるチーム、医療関係者とドライバー 2 人です。これは国の定めで決まっています。その 13 人のチームが 1 か月で調べられる広さは 22,500 m² です。150m 四方ということです。13 人で 1 か月かけて 150m×150m しか調べられないのですよ。そこに、これだけのものが落ちているのですよ。ウクライナもそうならなければいいですけどね。

金属探知機で調べられるのは地表から 25cm までなのです。それ以上深くあるものは蜜からないので。ところが 6・7・8 月に地面が雨で流されて、知らない子どもが「何これ？」と言ってドカーン！ 私の友人飯村君は、ラオスで「クラスター爆弾回避教育」をやっています。 《つづく》



写真は GNV「ラオス：世界で最も空爆された国」より引用



写真はクラスター爆弾 [ganas「ラオスは国土の 3 割以上に不発弾が埋まっている！ 完全撤去に 200 年も」より引用]



写真はネズミ避けのためクラスター爆弾の殻で高床式にした米の貯蔵庫。[出典は同上、3 点とも香田が引用]